

令和2年度第1回石川県スポーツ推進審議会 会議録

日時 令和2年12月21日（月） 9:30～11:10

会場 石川県庁 1109会議室

出席者 13名（委員数14名 臨時委員数1名）

次第

- 1 開会
- 2 挨拶 清水県民文化スポーツ部長
- 3 報告事項
(1) これまでの取り組みの評価
- 4 協議事項
(1) 石川県スポーツ推進計画（仮称）について
(2) 石川県スポーツ推進計画（仮称）の策定方針（案）
- 5 閉会

部長挨拶
清水部長

みなさん、おはようございます。本日は本当に大変お忙しいところを第1回のスポーツ推進審議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。そして委員の皆様方には、日頃から本県のスポーツの振興にご尽力いただいておりますこと心より感謝を申し上げたいと思います。

さて、今年ですがご承知の通り、新型コロナウイルスの影響で、東京オリパラあるいは国体といった主要な大会が、相次いで延期・中止となる等、これまでスポーツ界、色んな面でかつて経験したことのない大変厳しいスタートとなったわけですが、その後は無観客でありますとか人数制限、それから接触の回避、そういった様々な感染防止対策、こういったことを講ずることによって、関係の皆様のご尽力によってスポーツ活動が徐々に再開をされているという新聞等を見ましても、そういった報道がなされているように、本当に感謝している次第でございます。しかしながら新型コロナウイルス、まだまだ予断を許さない状況であることに変わりはありません。関係の皆様には、引き続き徹底した感染防止対策を講じていただきながら、色々な行事を進めていただける等工夫をしながら進めていただければなというふうに思っております。

さてこれまでですが、本県では県教育委員会所管の第2期石川の教育振興基本計画、スポーツに関する部分を本県のスポーツ推進計画と位置づけ、様々な取り組みを進めさせていただいております。そして、平成29年度からスポーツ行政が知事部局に移管というふうになりました。そして、第2期の石川の教育振興基本計画が、今年度改訂されるこのタイミングにあわせまして、スポーツ分野の単独の推進計画を策定したいと考えております。

本日はですがこの後、推進計画、仮称ですけれども、につきまして、委員の皆様方にご審議をいただくこととしております。本県のスポーツ振興が一層図られますように忌憚のないご意見をいただければと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会 本日の審議会は、委員13名の方にご出席いただいておりますので、石川県
釜田課参事 スポーツ推進審議会条例第6条の定足数を満たしていることをまずご報告さ
せていただきます。なお、本年度新しく4名の方が委員を入れ替わっておりま
すので、ご紹介いたします。石川県学校体育研究会会長 石田 浩二 委員で
す。

石田委員 石田です。よろしく申し上げます。

司会 石川県中学校体育連盟会長 宮崎 聡 委員です。

宮崎委員 宮崎です。どうぞよろしく申し上げます。

司会 石川県スポーツ推進委員協議会副会長 前畑 曜子 委員です。なお、前畑
委員は本日都合により欠席となっております。
金沢大学国際基幹教育院准教授 小田 佳子 臨時委員です。

小田委員 小田です。よろしく願います。

司会 以上4名の委員の皆様です。なお、事務局側の出席者についてですが、お手
元の座席表に記載されています酒井次長、清水部長の隣の酒井次長につきまし
ては、突然の公務で欠席となっていることをご連絡申し上げます。

資料の確認をさせていただきたいと思っております。お手元には「次第」、「座席表」、
「委員名簿」、A3版の会議資料を綴ったもの、それから参考資料としてA4
版の「石川県スポーツ推進条例」、「第2期スポーツ基本計画」、「令和2年度の
スポーツの実施状況に関する県民意識調査結果概要」であります。皆さん、お
揃いでしょうか。

ここで会議を始めるにあたり、審議会条例第4条による今回の会長、副会長
の確認をさせていただきます。会長、副会長につきましては、委員の互選によ
り選出することとなり、前々回の平成30年度の推進審議会において、
会長につきましては西尾委員、副会長につきましては尾山委員が選出されてお
ります。それではこれ以降の会議の議長は、規定により西尾会長に願いた
します。西尾会長、よろしく願います。

西尾会長 規定に従いまして、審議会の議事を務めさせていただきます。よろしく願
います。

ご挨拶にもありましたけれども新型コロナ禍の難しい大変状況の中で、皆様
方もそれぞれの役割を果たしてこられたかと思っております。委員の皆様の前向きな
ご意見をこの会議でいただきまして、より石川のスポーツ振興、推進に役に立
てばと思っております。三密は避けなければいけないのですが、審議するもの
は密度の高いものができることを期待してよろしく願います。

それでは、今回の審議会で石川県スポーツ振興計画について、皆様とともに
協議するというのが主なことかと思っております。

それでは、「報告事項1」のこれまでの取り組みの評価について、事務局の
方からご説明、ご報告をお願いします。

報告事項 石川県スポーツ振興課長の栗津でございます。座って説明させていただきます

事務局
栗津スポーツ
振興課長

す。

(1) これまでの取り組みの評価

まず、「資料1の1」をご覧ください。第2期教育振興基本計画の中にスポーツ分野の部分がありまして、PDCAサイクルでいうところのCにあたる確認ということで、これまでの取り組みがどうだったのかということのご説明を先に差し上げたいというところでもあります。この「資料1の1」は、前期の計画、第2期の中で数値目標の項目がございましたので、その達成状況についてまとめたものとなっております。「基本目標8」というところがスポーツの担当の部分になっておりますが、そこで5つ目標があって、一番右に達成率ということになっています。100%を超えているもの、それに近いもの、それに達していないもの、とありますので詳細については、個別に「資料1の2」以降でご説明をさせていただければというふうに思います。

「資料1の2」なんですけれども1つ目の指標で、総合型地域スポーツクラブを設置している県内の市町数ということになっています。令和2年の目標値が19市町ということで、県内全ての市町を目指していたというところではありますが、今のところ12市町にスポーツクラブが設置されているということで、達成率は63.2%ということがございます。県としましては、これまでクラブマネジャー兼日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会、クラブマネジャースキルアップ講習会等、クラブスタッフの資質向上のための講習会、それからクラブと市町担当者の連絡協議会、そういったものを開催してきたというところでありまして、平成29年度にはクラブアドバイザーを設置しまして、県内のクラブであるとか市町を訪問して、クラブ運営とか地域スポーツの状況把握、それから運営上のアドバイス等を行ってきたというところでもあります。こういったことを通じまして、クラブを設置されていない市町に働きかけをして、19市町まで広がればというところではあったんですけれども、結果としてはですねクラブアドバイザーが訪問してみて、地域の事情によってはそこまで現実的には難しい部分もみえてきたというところを感じているところでございます。

次に「指標2」であります。日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数ということで、これは令和2年の目標が3,000人ということになっておりましたが、今2,756人ということで達成率が、91.9%であります。こちらにつきましては、県は日本スポーツ協会公認のスポーツリーダーの資格を取得できる地域スポーツ指導者養成講習会というものを開催してきておりました。こちらなんですけれども、県内の指導者数平成27年度からですね徐々に増加はしているんですけれども、当初の見込みよりも増加の割合が抑えられているというところでした。指導者資格をすでに必要としている方は、ある程度取りきりつつありまして、これ以上なかなか広がっていきづらいと感じられるところであります。

次に「資料1の3」をお開きいただければと思います。こちらの指標が、いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会の参加者数ということになりました。累積なんですけれども令和2年度では40万人という目標があるんですけれども、今は42万人を超えて達成率は105.9%ということになります。平成28年度に「県民スポレク祭」といわれていたものを「いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会」ということにリニューアルしまして、この年から総合開会式等スタートのところ勢いづけるような取り組みを実施してきた結果ですね、より多くの県民の方に親しまれるような工夫ということで、取り

組んでいます。令和2年度は、新型コロナウイルスもあって、若干種目別大会等が中止となり、なかなか難しい面もありましたけれども、県内多くの生涯スポーツ団体が参加する一大イベントとして、定着してきたのではないかとこのように思っておりますので、この取り組みは引き続き継続して、やっていけるかなと感じているところであります。

4つ目、日本障がい者スポーツ協会公認初級障がい者スポーツ指導員養成講習会修了者の令和2年度の目標値が590人に対しまして、624人ということで達成率は105.8%であります。県では、健康福祉部の障害保健福祉課というところを中心にさせていただいて、障害のある方々にスポーツ指導を行う指導者の養成に取り組んできて、引き続き障害者のスポーツ活動の振興を図るために、養成講習会の開催を通じて、指導者の養成に取り組んでいきます。

「資料1の4」をご覧くださいいただければと思います。指標5つ目ですが、スポナビいしかわという県のスポーツ情報ネットワークですけれども、こちらへの参加団体の割合というものがあまして、こちら目標値が75%だったんですけれども70%ということになりまして、達成率は93.3%です。県がスポナビいしかわを運用してきているわけなんですけど、県内で開催されるスポーツ大会ですとか講習会、こういった開催情報を細かに発信してきているところ、後は県内の小学校からクラス単位で8の字跳びとか縄跳び等の種目に挑戦する「スポチャレいしかわ」そちらの県内順位ですとかそういった情報をここで発表する場ということでアクセスする、利用される方々もいるということでありまして。こちら令和2年度にホームページのサポート期限を迎えるということとして、今リニューアル中でございます。今は見られない状態になっているんですけれどもこのタイミングで、大会とかイベント等の情報を見やすくしたり、後、プロスポーツチームの紹介ページを載せるといったことでの連携ですね、そういったことを進めてより利用しやすいホームページにしていきたいというふうに思っています。以上でこれまでの取り組みにおける報告事項を終わります。

それから次に「資料1の5」をご覧くださいいただければと思います。こちらは新たに計画をたてるためということもあって、県内のスポーツの現状の最新情報を調べる意味も込めて、県民意識調査というものをいたしました。そのご報告概要でございます。こちら調査の概要を見ただけですと県内に居住する18歳以上の男女ということになっていまして、こちらに楽天インサイトのパネラーさんですけれどもご回答いただいたウェブアンケート、ウェブでご回答いただいたものになっています。対象者数は1,000件になりまして、県内の人口比に合わせた回答になるように1,000件を割り振ってご回答いただいたということになっております。

結果が左ページの下の部分で、まずスポーツ実施率でございます。上が週1日以上、下が週3日以上で、基本的には週1日以上スポーツ実施をどれぐらいしているかということが注目されると思いますが、本県では49.7%の方が、週に1日以上運動をされている。国の調査では、53.5%ということで少し数値が下回っている状態です。週3日以上という割合と積極的にスポーツに取り組んでいる人の割合で見ましても、石川県では22.6%、全国では27%ということになっていまして、こちら数値が国の平均より下回っている状態です。男性と女性の性別で見ますと、60代を除いて男性の方が女性より高い数値で、女性の方が少し低く、石川県の女性の運動実施率は週1日以上で44.5%、全国では51.4%で7%ほど下回っている。そしてこの1

年間運動・スポーツしなかった人は24.3%ということであります。

次に右ページをご覧くださいまして、運動・スポーツを実施した理由、実施した方に対しての理由ですが、圧倒的に「健康のため」で83%、続いて「体力増進・維持のため」が58.5%、「運動不足を感じるから」が54.2%で「楽しみ・気晴らし」は46.1%でした。

次に下の部分で週に1日以上運動・スポーツを実施できなかった理由は、「仕事や家事で忙しい」が46.3%、「面倒くさいから」は32.8%、「歳をとったから」20.3%、「特に理由はない」18.9%です。性別で見ると「面倒くさいから」という方は、30代を除いては男性より女性の方が高くなっている。「運動・スポーツが嫌いだから」は15.1%で男性は7.1%、女性は21.5%ということで割と性差が大きくなっている、特に20代、30代の女性でスポーツが嫌いといっている理由により運動を実施しないとなっております。

では次に「資料1の6」のページを開いてください。ではどのように運動をしたかというご回答ですが、「道路」、「自宅」、「公園」、「公共体育・スポーツ施設」と順に多いところですが、「道路」は45.3%ですが、これ全ての年代で男女ともに1番多いといったこととなります。「自宅」で運動したという方は、女性は35.2%、男性は26.4%ということでここに差がございます。それから「公共体育施設」ですね、こちらを利用した人というのは、60代を除いては女性より男性が高く、男性の20代が27.0%、30代では30.0%というふうになっております。

次に1年間に1回以上どのような形でスポーツしたかという質問をいただきましたが、こちらは「個人で自由に」と答えた方が71.1%でずいぶん高く、それ以下は順に「家族」、「地域の友達」、となっていて、「個人で自由に」と答えた方は、20代30代では男性よりも女性が高く、40代以降は男性が高く、最も高い男性50代は86.4%の方が、「個人で自由に」運動していることがわかりました。「家族と」という方は、30代女性が33.3%と一番高く、30代男性は8.3%と低くてここも非常に差が出ており、子育ての関係もあるのかも知れませんが、そういったデータが出ています。後、フィットネスクラブ等の民間会員制クラブということで、意識の高い方なんかが多いんじゃないかと思いますが、そちらは女性が14.2%、男性が6.2%といったところでございます。

以上がスポーツの「する」部分のデータとなりましたが、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」の観点でいえば「みる」がどうかというところで、資料右ページの「直接現地でスポーツを観戦した」方がどれくらいかといったところ16.6%が観に行かれたということです。性別によると男性では20.5%、女性では12.7%ということで、観戦に行った人は男性の方が多いということです。特に50代以上の女性というのは、90%以上の方が観戦していないということになります。

次に「テレビやインターネットで観戦しましたか」という質問では、36.9%の方が観戦したというところで、性別で見ますと男性が44.7%、女性が29.2%ということで、男性は全ての年代で4割を越えており、女性は3割程度にとどまっているところであります。

次にスポーツを「ささえる」活動について伺ったところ、「スポーツに関するボランティアを実施した人」という質問については、「日常的に行っています」という方は3.5%、「イベントや大会がある時に不定期に行いました」と

いう方は6.1%であわせると9.6%ということになっています。「ボランティアを実施した人」の割合も女性よりも男性の方が高いということになりまして、男女ともに20代から40代の方が、50代以上よりもボランティア活動を実施した率が高いといった結果がでております。報告については以上でございます。

西尾会長 はい、それでは只今のご報告について、「これまでの取り組み評価について」ということですが、また後半には、「本県におけるスポーツの現状について」の報告について何か質問ご意見等、非常に広範囲に渡った内容かと思うんですけども、全体でも結構ですし、何かご質問ご意見等お願いできますでしょうか。

では、杉森委員よろしく申し上げます。

杉森委員 今、たくさんの資料の中で、私は県障害者スポーツ協会副会長杉森と申しますが、「資料1の3」ですね「指標4」のところで、障がい者スポーツ協会公認初級障がい者スポーツ指導員養成講習を開催したということに説明があったわけですが、なるほど当表から言っても、数はなるほど何をしても一時的なもので、やはりこれは我々障害者のスポーツ協会といたしましてはですね、人間、まあ我々協会としましては、今のところ1人しかいないわけで、そこでやはり人間とご支援をお金につくわけですが、お願いしたいという風に思うわけですが、これはもう今から一生懸命やっても我々障害者の選手を育てるといっても、人間がおらなくちゃとてもとてもできるわけではありません。

そこでまあ皆様のご意見をいただきながら、ひとつ事務局といたしましても今後これに対して、よろしくお願ひしたいという風に思うわけですが、

まあ私どもは、障害者スポーツのことだけしか申し上げませんが、今後本県の障害者スポーツの活動の振興を図るために、引き続き養成講習会を開催し、指導者の養成に取り組む必要があると考えております。以上です。

西尾会長 指導者人材の養成ということ、障害者スポーツに関して栗津課長コメントでございますでしょうか。

事務局 講習会、今後も引き続ききちんとやっていきますので、この資格を取った方ですよね、今後スポーツ振興にどれくらい貢献していただくかということにかかってくると思いますので、少なくとも県は、講習会はきちんとやって、そういう人材が少しでも増えていくようにと思っております。

杉森委員 我々の団体としても、事務局に人材を確保いただくということがないとやっぱり、これは絶対に長続きはしない、そういうふうに思います。是非、会話もして今後方法を改めて欲しいと思います。

西尾会長 はい、ありがとうございます。実効性のある施策の方針を今後とも立てていただきたいと思います。他にご質問ご意見、野口委員よろしく申し上げます。

野口委員 市町教育委員会連合会の野口と申します。今日はどちらかというところと教育長という立場よりも元教員だったという立場の方で話しをさせていただこうと思います。また何か違うなということがあり次第、少し加えていただきたいと思います。あのお話ししたいのは「指標5」のところでありまして。「指標5」のところ「スポナビいしかわ」がグラフになっていますが、そのグラフの下のところ「スポチャレいしかわ」がグラフになっていますが、そのグラフの下のところ「スポナビいしかわ」がグラフになっていますが、そのグラフの下のところ「スポチャレいしかわ」、非常にこれ現場で好評です。何より子ども達の運動能力を高めるためにこういう取り組みはとても大事だと思いますし、途中から速報値でもうすぐ早い段階で各県内の情報もあがってきて、子ども達はそれを見ながら「よし、次はこれを超えよう」という意欲的な姿を見ることができて、素晴らしいなという印象を持っていますし、おそらく現場でも増えていると思うのですが、8の字跳び「など」になっていますので、いいんですけども、やっぱり現場で子ども達の様子を見ていますと全体的な運動能力テスト等の中身から見ると、いわゆる足を使うというところの能力はすごく伸びてきているかなと思います、俊敏性みたいなものが。ところが、なかなか現場にいて改善できなかったなあと思っているのは、投げる力なんですね。そんなようなところを意識した種目が「スポチャレいしかわ」の中でも増えていくと、まんべんなく子ども達の体力ってというのが、伸びてくるんじゃないかなと思いますので、この際にでも種目についてもご一考いただくととてもうれしいかなと思います。すごくいい取り組みなので、今後も続けていただくと嬉しいなあとと思います。以上です。

事務局 ご意見ありがとうございます。「スポチャレいしかわ」たしかにすごい好評だというのは我々も認識してしまっていて、ホームページのアクセス数も増えましてですね、そういったことが関心の高いところかなあと思っていますので、我々も「スポナビいしかわ」ではですね、そういった好評の声なんかも踏まえて、改善していきたいと思っておりますので、ありがとうございます。今後も生かしていきます。

西尾会長 良い意味での競争意識をだすこと、ただ私スポーツドクターの立場もございまして、それによつてのスポーツ傷害とか子どもが寛容でなくなるとかということが、できるだけないように目を配っていただければ、よりいい結果が出るかなと思います。

事務局 保健体育課長の村戸です。今「スポチャレ」の話がでましたが、教育委員会の主管としてやっている部分ですので、ちょっとお答えさせていただくと「投げる力」というところでは、「シャトルボール」という種目がひとつありまして、子ども達が距離をおいて一応ボールを投げ合うというような種目があるんですが、そういったものを通じて少しでもそういった「投げる力」が向上すればいいなあとというふうに思っていますし、また他に体力向上の推進事業の中でも「投げる力」、走・跳・投という部分で、今取り組んでいるところでありまして、そういったところで少しずつ改善していけばいいかなと思っています。また検討して頑張っていきたいと思っております。

西尾会長 今のご意見に対してご質問よろしいでしょうか。でしたら、続きまして協議事項の方に入りたいと思っております。委員の皆様からご意見多数いただいて、令和

3年度からのスポーツ分野単独の計画に生かしたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。始めに石川県スポーツ推進計画、これは仮称でございますけれども、の作成の経緯、計画の位置づけ、策定にあたっての基本的な考え方について事務局の方から説明いただきたいと思います。お願いします。

事務局

(1) 石川県スポーツ推進計画（仮称）について

それでは資料2をご覧くださいと思います。石川県スポーツ推進計画、仮称ですが、こちらについてと言うことで、まず策定の経緯、左側の図をご覧くださいと思います。まず、一番最初、昭和36年、これは前回の東京オリンピックに併せて制定されたスポーツ振興法というのがありまして、これが昭和36年ということで、相当昔で、この頃は施設の整備とか、そういったことに重点を置かれていたというところですが、スポーツ振興基本計画というのが平成12年にできまして、これは国の方で長期的総合的な観点でスポーツ振興の基本的方向性を定めたものということになっていまして、地方公共団体においても、それを参考にしてですね、主体的に取り組みを進めていくもの、そういう指針みたいな形のもので定められておりました。

これを受けまして本県の動きというところで、3つのビジョンがそれぞれあって、学校教育振興ビジョン、生涯学習振興ビジョン、でスポーツビジョンというものも平成15年に出来ていたところです。これが平成18年、左側にありますけど、教育の方の動きで、教育基本法というものが平成18年に改正されてこれを受けて教育振興基本計画というものができました。こちらにですね、学校教育、生涯学習、スポーツすべての内容が入っていましたので、石川県においても3つのビジョンを一本化、これスポーツビジョン等の期間中だった訳なんですけど、一本化してしましまして石川の教育振興基本計画ということになります。これ平成23年にできておまして、その中の基本目標8が「ライフステージに応じたスポーツ活動の充実」というところになっておったところです。

で、国の方でスポーツ動きがありまして、スポーツ基本法、平成23年に出来て、これスポーツ振興法を全面的に改正して、スポーツの価値みたいなものに着目した法律になっておまして、平成24年、翌年にスポーツ基本計画というのができ、オリンピックの東京開催が決まって、スポーツ庁創設が平成27年ということになっておりました。教育の方で言えば、現行の教育振興基本計画、これが平成28年に出来たわけなんですけど、国の教育振興基本計画を参酌する形で県も計画を作るということで今まで出来たところであります。

まさに今回の話になる訳なんですけど、平成29年にですね、県の中で県民文化スポーツ部、それだけスポーツの地位が県庁の中でも高まったということで、スポーツ部局、知事部局でスポーツ振興課というのができて、平成29年、同じ年に石川県スポーツ推進条例というものが出来たということであります。それで今回、教育振興基本計画改定の時期になりますので、第3期石川の教育振興基本計画は国の教育基本計画を参酌し、県のスポーツ推進計画は国の方の第2期スポーツ基本計画を参酌した形で策定するというところになっておると、いうところでありまして。

で、右の資料2、計画の位置づけの方をご覧くださいと思いますが、まず今、スポーツ基本法、先ほど申した平成23年にできたものになりますが、こちらの10条で都道府県はスポーツ基本計画、国のものですね、これを参酌して地方の実情に応じたスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めると

いうことで、このような規定があります。現在では、石川県スポーツ推進条例というものがありますが、知事がスポーツの施策の総合的かつ計画的な推進を図るためにスポーツ推進計画を定めるということになっていまして、今では第2期の石川の教育振興基本計画のスポーツに関する部分がスポーツ推進計画という位置づけになっていたというところでもあります。で、3の計画策定にあたっての基本的な考え方ですが、国の第2期スポーツ基本計画、これが今国の方では期間中になっていますのでこれを参酌しつつ、スポーツに対する関心の高まりということで、ラグビー日本大会とかオリンピックとかそういったところで、関心が凄く高まっているところでもありますし、スポーツ活動の多様化っていうのは、スポーツはする人のためだけでなくスポーツはみる人ささえる人、いろいろな関与の仕方、楽しみ方があるということで、そういった内容をすべて踏まえた内容とすることが適切であろうというふうに考えております。

そして計画の期間ですけれども、これまでの計画がだいたい5年ずつだということもありますし、現行の石川県長期構想というのがあるのですが、これは令和7年が最終的な期間となっておりますので、それに合わせる形で県のスポーツ推進計画も令和7年までの5年間というふうに考えております。そして繰り返しになりますが、スポーツ行政、知事部局に移ってですね、それだけスポーツに力を入れていこうというスタンスを見せていくことと併せてですね、第2期石川の教育振興計画を改訂するタイミングにスポーツ単独の石川県スポーツ推進計画を策定するという、先ほど部長の話にもありましたけれども、その中で進めていきたいというふうに考えております。

スケジュールのほうご覧いただければ、先ほど説明いたしました県民意識調査というものが10月に、まさに最新の状況を知るために行っておりまして、このデータを元に今12月、まさにここでやっていますスポーツ推進審議会、これが今回、で議論いただいて、1月にこの計画の内容をパブリックコメントした上で、3月に再びこのスポーツ推進審議会を開催させていただきまして、ここで最終的に策定決定という流れを考えているところでもあります。以上でご説明を終わります。

西尾会長 はい、ただいま説明ありました石川県スポーツ推進計画（仮称）策定の経緯、計画の位置づけ、基本的な考え方についてのご質問ご意見ご提言等ありましたら委員の皆様の方からいただきたいと思っております。ございませんでしょうか。全体についてでも結構ですし、その中のどこかポイントでも結構です。

向田委員 よろしいでしょうか

西尾会長 はい、では向田委員、お願いします。

向田委員 今課長さんの方から新たなスポーツ推進計画のご説明あったんですけども、これまで県の教育振興基本計画の中にスポーツの分野として記載されていた訳なんですけど、学校と大きく関わる児童生徒の体力の向上であったり、先ほど野口委員さんの方からあったスポチャレの部分であったり、こういったものは、ボリュームは減っても基本目標の1つとして教育振興基本計画にも残るんでしょうか、それとも全部がスポーツ推進計画へ移るんでしょうか。

西尾会長 はい、では村戸課長お願いします。

事務局 体力とか運動能力の部分なんですけども、一応教育振興基本計画の中には基本目標3の中に「豊かな心と健やかな体を備えたタフな人づくり推進します」というような項目がありまして、その中に一応位置づける予定という形になっております。

向田委員 はい、ありがとうございます。

西尾会長 他に、栗津課長お願いします。

事務局 教育振興計画の方も、私が参加していますし、逆にスポーツ推進計画の方にも村戸課長来ていただいていますし、そこは連携して齟齬のないようにですね、重複する部分もあると思いますが、整合性として連携していきますので。

向田委員 はい、ありがとうございます。

西尾会長 他にご質問等よろしいでしょうか。中身については次の、ご説明いただけるかと思っておりますので、次に石川県スポーツ推進計画（仮称）の策定方針（案）について事務局よりご説明いただきます。

事務局 **（2）石川県スポーツ推進計画（仮称）の策定方針（案）**

石川県スポーツ推進計画、ちょっと前置きが長くなってようやく中身の部分になるということではありますが、まず資料3をご覧くださいまして、左側にこれまでの主な取り組みというものの記載をしております。前期の教育振興基本計画の中にありました柱、大きな柱がですね、一番左に書いています、生涯にわたるスポーツ活動の振興、競技スポーツの振興、東京オリパラを見据えた取り組みの充実というのになっておりました。

そこに記載もあったわけですが、黒字がそもそも記載があってやったこと、赤字が現計画には未記載なんですけども、スポーツの推進のために取り組んだこととなっております。上から見ていきますと、まず目標にもありました「いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会」なんですけども、4月に総合開会式をやるとかここに知事とか著名な選手を呼んで、県全体で県民の方のスポーツ振興、ようはスポーツに親しみやすい大会をどんどん開くというような取り組みをしてきまして、種目別大会も45ということで面白い種目も色々あって、この中に多種多様な広く県民のスポーツを親しむような環境を整備したといえると思うので、毎年2万人超の参加者数を数えている、というふうになっております。

その下なんですけども、運動に取り組む習慣作りを目標としてですね、スマートフォンアプリ「いしかわスポーツマイレージ」というものの運用を、これ平成30年から始めました。利用者数は1万6千人というふうな形となっていて、全国で始めてスポーツをする、みる、ささえるそれぞれの活動をポイント化してそのポイントで県産品の抽選を参加できるような、そういったことでスポーツ活動に皆さんに親んでもらおうといった取り組みを行ってきております。

県独自のスポーツ賞の創設ということで、まず特別賞というものは国際大会で優勝するような、世界選手権とかですね、優勝するような方々、去年で言え

ば川井梨紗子さんであるとか鈴木雄介さん、トランポリンの6人、でのべ16人、1チームの方がこれまで表彰されてきたところとなっております。昨年は優秀賞というものを新たに創設しまして全国大会で優勝するとか国際大会で入賞するような方々、本県ゆかりの選手がやはり国内外で活躍すると夢や希望を与えるという、すごい大きな効果がありますのでこういった賞を設けてそういった方々を表彰したということで、35人、8チームについて、優秀賞を創設したというところであります。

次に競技スポーツの振興の部分で、中高生や国体選手の競技力向上ということで、国体で20位代、それから中学生強化、高校生強化ということで、優秀な選手を強化指定する等してですね、こういった方々に合宿に行ってもらい、競技力強化は安定的に行っているところでもあります。それからジュニアアスリートの発掘ということで、やっぱり次世代がどんどん増えていく仕組みを作らないといけないということで、これ平成30年から開始したところでもあります。こちら最新機器を活用してですね、子どもさんたちに、適性にあった競技は何かということをご提案して本人らがそこからスポーツに取り組んでもらうといったことを行っています。スポーツ体験教室もレスリングとかフェンシングとか、そういった有名なんですけど、あまりすぐに取り組んでみようとなかなかなくてこなかったような競技も体験教室でその魅力を伝えるようなことをしております、申込定員を上回るような申し込みを毎回いただいております、いうところでもあります。

次に有望アスリートの就職支援ということで、国体で活躍するようなレベルの方々を競技団体から推薦いただきまして、大学が関西関東にあっても地元の企業に就職したいということ、本人の希望があつて、企業側もスポーツで頑張った方々って人材として優秀だと思いますので、そういった方々に就職してほしいというような希望があるのでそのマッチング支援を行うということで、企業側もしくは優秀な選手側の情報を提供しあつて、それから試験なんかの交通費をみるというようなことで、結果競技力の向上につながりますので、そういった取り組みをしております。

障害者アスリートに関する支援も平成29年から行ってきておりまして、国際大会に出場する経費、例えば旅費であるとか交通費、それからこれもいろんなご意見いただきまして範囲を拡大して、例えば器具の運搬費とか保険費、それから国際大会だけじゃなくて例えば中央競技団体の合宿に参加する際等ですね、そういった支援できるように徐々にアップグレードしているような、そういった事業になっています。

3つ目、東京オリパラを見据えた取り組み充実のところ、オリンピック出場を目指す本県関係アスリートへの支援というものは平成26年から令和元年までずっとやってきたところでして、グローバルアスリート支援事業から石川オリンピック特別強化支援事業ということで、トランポリンとかハンドボールとか競歩とかですね、県内でも相当レベルが高くてオリンピックにつながりそうな競技団体を支援してきたところでもあります。海外遠征費とか中央コーチを招聘したりとかそういったところに支援をしてきたところでもあります。

それから平成27年から事前合宿誘致をしております、石川県木場潟カヌー施設、こちら相当ナショナルトレーニングセンターとしても質を高めてですね、事前合宿に活用してもらおうというようなことで、10競技のべ24ヶ国が実施の意向を示しているということで非常に多くの方に来ていただくことになっております。

平成29年からオリパラ教育も教育委員会の方で実施していただいているというところであります。

この3つの柱に収まらない部分で一番下を書いてありますが、県内トップスポーツチームと包括連携協定というのを平成30年に締結しています。いしかわスポーツキッズフェスタという県内トップスポーツチームとの交流とか体験が出来るというイベント、それも毎回好評をいただいておりますし、チームを応援する機運というのがやっぱり交流を通じて高まっていますのでこういったことでチームのファンを増やしたり、地域活性化の役割を果たしていると、そういった形の取り組みを行っております。

以上の取り組みはご覧いただいているところなんですけれど、ちょっと課題の部分もあげておるのがこの真ん中になっています。先ほどもご説明しましたスポーツ実施率ですが、石川県は全国的に見ても低くなってしまっていて、この向上が必要ではないかと書いていますが、本県は49.7%、全国53.5%と、4%ほど低いということになってしまっていて、女性で見ると44.5%ということで全国の51%から7%ほど低いということになっています。

それから先ほどの県民意識調査の中で子育て世代が県にどんな施策を求めているのかということをお聞きすると、やはり子どもの運動促進、例えば体験教室もそうだと思いますし、施設を整えてほしいとかそういうのもすべてひっくるめてですね、子どもがなんとか運動出来るような環境を整えてほしいという声が非常に多いというところでありました。

あと休日の部活動の地域移行ということで、教員の方への負担が過重になっているというのは死活問題としてあってですね、それを軽減するために休日まで教員の方に部活動をやっていただくっていうのは、制度的に行き詰まっている、これ以上難しい状態になっているということでその役割を地域の方が果たさないといけなくなっているという、これは文科省からもうその方針が出ましたので、我々はおそらくそれに合わせてやっていかないと取り残されてしまうというような危機感を持っているところでもあります。

競技スポーツの方を見てみますと、新たに採択されたオリンピック種目ということで、日本においてはそこまでまだ普及していなくても世界的に見ると普及していて、それがオリンピック種目になっていて、今後はどんどんそちらに人気がいったり、関心がいったりっていう、そういうことも考えられるのではないかと、ところで、まだ県内では全然普及していないところもありますので、そういったものとしてスポーツライミングであるとか3X3バスケットとかですね、何らかの手当が出来ないかという考えを持っております。

それから東京オリパラを見据えた取り組み充実のところなんですけれども、東京オリパラ延期にはなって、今年は終わらなくて来年になりましたが、これは今開催するとなると相当な盛り上がり期待できるんですけども、これが一過性のものに終わって、その盛り上がりがしぼんでいくということがあっては、この機会を逃してしまうのはもったいないと思っておりますので、スポーツに対する関心の高まりであるとか事前合宿に来ていただいた国とは交流が、つながりが出来ますのでこういったものも継続的に維持していく、こういったレガシーを持続的に活用していくっていうのが、課題として考えているところでもあります。

以上のことからですね、一番右の新たに追加する取り組み方針というところであげているところでもありますので、ご覧いただければと思いますが、まず一番上「生涯にわたるスポーツ活動の振興」、これは柱としては維持しています

が、「いしかわ県民スポーツの日」を制定ということで、オリパラでスポーツに関する関心が高まっている今、こういう県民スポーツの日というものを設定してですね、この日から皆さんスポーツに取り組んでもらうというそういうきっかけ作りのようなものをイメージしているところなんです、スポレクの交流大会というのが、総合開会式今までだいたい4月の第4日曜日くらいにありまして、それが定着してきているという、そういったことも活かしてですね、この日を県民スポーツの日に制定したというところでありまして、来年このときには記念イベント開催、例えば、今コロナ禍で出来ることが、どれくらい出来るか検討が必要なんです、県民参加型でいろいろ運動してもらおうようなイベントとか、それこそ著名なアスリートを呼んで、来てもらった人にそこからスポーツに新たに取り組んでもらうような、そういうきっかけ作りですね。あとスポーツ施設、県市町も無料開放してもらおうとかで、少しでもスポーツを始めようというハードルを、最初のハードルだけでも低めてですね、そこからどんどんスポーツに関わっていただけて続けてもらう、といったそういった日になれば良いなということで、スポーツの日を制定したところであります。

2つ目なんですけども、女性や子どものスポーツ活動の促進ということで、意識調査でもありましたが、県の女性の運動実施率がちょっと低くて、例えば運動が面倒くさいであるとか運動が嫌いであるっていう、運動の価値にちょっとまだ気づかれていない部分もあると思っていますので、そこ気づけば一気に運動実施率も高まっていくようなそういう潜在的な部分もあると思いますし、子どもについてもこのコロナ禍で相当運動が出来ていないというような話も聞いたりしますし、子育て世代ってのはやっぱり子どもの運動っていうのは非常に関心が高い部分でもありますので、こういったターゲットをある程度絞って運動実施をしてもらった結果、いろんな幅広い層で運動をきちんとやっていますというような状態に、県全体がなっていけばなと、いうふうなことを考えているところであります。

次の「競技スポーツの振興」ですが、ジュニアアスリートの育成強化ということで、将来国際大会や全国大会で活躍できるジュニアの選手ということで、本当にスポーツの世界も人材獲得競争というか、ジュニアの段階からある程度育てていく、長期的な視野に立たないと県の競技力っていうのは維持できないと思っていますので、そういった視点を引き続き持ってですね、こういったことはきちんと取り組み、方針の中に盛り込んでいきたいと思っておりますし、あとより高いレベルのアスリートの育成というの、これもやはり県内のオリンピックが多く出るということになりまして県内全体が盛り上がりまして、それこそ夢や希望につながるということで、こういった観点もスポーツの価値を高めるために行っていきたいことである、というふうに思っております。あと障害者アスリートの競技力向上ということもですね、障害を持った方もですね、自己の可能性っていうのをどんどん切り開いていくっていうこともすごい重要であると思っていますので、こういった取り組みも必ず引き続きやっていきたいというふうに思っております。

3つ目なんですがこの柱の部分で今までは「東京オリパラを見据えた取り組み充実」という柱になっておりましたが、この東京オリパラ、終わってしまいますけれども、このオリンピックパラリンピックの盛り上がりっていうのをですね、まさに石川県の地域活性化とつなげていきたいということで、盛り上がりそのままだ地域活性につなげていくということで柱としております。

取り組みの部分ですが、オリンピックパラリンピックの聖火リレー実施、あ

と事前合宿とか、こういったことでスポーツの関心、高まりが必ずあるということですね、そういった部分であるとか、友好関係を築いた合宿実施国との競技、これはその交流は引き続きやっていくということでオリパラのレガシーを継続するというのもきちんと地域活性化の一手段として位置づけて取り組んでいきたいと、いうふうに思っております。すみません長くなりましたが以上です。

西尾会長 はい、それではただいまの説明につきまして、策定方針案ということになりますが、時間が押しているのですが時間を取って、委員の皆様方からのご質問・ご提言を頂きたいと思います。

前田委員 高体連の前田と申します。よろしくお願いいいたします。競技スポーツの振興で、ジュニアアスリートの育成強化と言うことで、中体連・高体連の成績とも直結致しますので、大変ありがたく、素晴らしい施策だなと感謝しております。先日、金沢プールで中田周三杯という飛込の大会があって、ちょっと観戦する機会があったんですけど、ほんとに小学校低学年から全日本チャンピオン、もうオリンピック選手と一緒に集まってという、そういう大会だったんですけど、そのジュニアの選手にとってはほんとに励みになるというか、いい大会だなと、規模はそんなに大きくないんですけど、ほんとに素晴らしい大会だなと感じました。飛込に限らず、卓球とかバドミントンとか、トランポリンとかレスリング等、ジュニアで強化して、近年オリンピックとか国際大会で活躍している競技、石川県が、今申し上げた競技が強い競技となりますので、このジュニア育成ということを進めていただければ石川県からオリンピックで活躍する選手、メダルをとる選手というのが増えてくると思しますので、よろしくお願ひします。

ただ、それに関連しまして、ただ石川県でジュニアから育成して、中学校でもすごい活躍して、県外の高校に行ってしまう、ということがまますので、でそこで活躍してくれればいいんですけど、県外行ってあんまり活躍できない、そういうこともよくありますので、中体連とも連携しまして、県全体として石川県の高校へ行って、石川県の国体に出て、そういうような雰囲気、我々も作っていきたくと思ひますし、県も応援していただければと思ひます。

発言したついででちょっとズレるんですけど、ジュニアの育成ということで令和3年に北信越で全国インターハイが開催されるということで、石川県でもバレーボール、ソフトテニス、剣道、なぎなたの4競技が開催されます。本来、令和2年度も自転車とバスケットボールが開催される予定だったんですけど、コロナの影響で中止ということでそれもあって令和3年度は、ほんとに選手の一生の宝物となる大会にしたいと思っておりますので県の応援もよろしくお願ひいたします。以上です。

事務局 ご意見どうもありがとうございます。石川県も限られた予算の中で、ほんとに強い競技、競技毎にどうしても重点化していかないと、ほんとに強い競技を伸ばしていくことができなくなりますので、今おっしゃったご指摘は重要なことだと思ひますので、我々もそれを肝に銘じてやっていきたいと思ひます。あとまさに中学校の時に優秀だった人材が、高校で流出してしまう、それも悲しいことで発掘したらですね、それを維持するということセットで考えていきたいと思ひます、それはまさに競技団体が考えることになるので頑張っていた

だきたいと思いますが、我々もそれを応援する形でやっていきたいと思えます。

あとインターハイの件、令和3年度に県内で行われる4種目については、成功していただかないといけないと思っておりますので、その分の支援は我々きちんとやっていきたいと思っておりますので、ご安心いただければと思えます。

前田委員 ありがとうございます。

西尾会長 県内にいかに魅力的な受け皿を作るかが、ほんとに将来の石川県の競技力も含めてスポーツ実施率の向上にもつながることだと思っておりますので、よろしく検討をお願いします。

能木場委員 県の婦人団体の能木場でございます。先ほどからどうしても女性の運動する、スポーツをする率があんまりよくないです。でも私たちは、おばあちゃんの世代が多い私たちの団体ですけど、みんなでわざわざ外に出てスポーツクラブへいくとかではなくて、家事をしながら、買い物へ行くときに近くでも、最近ではコロナの関係もありますが、自転車を利用する、近ければ徒歩で買い物に行く、まあとにかく身体を動かしましょうということを、平日頃理事会でお話しをしております。そんな中でさっきの資料1-6のところがありました、自宅で女性は35.2%、それを見ましたらなんとなく、家事をしながら背伸びもできますし、料理をしながらいくらかでも身体をねじったりということを平日頃理事会で言っているのを、なんとなく少しは皆さんにしているのかなと、この数字をみて嬉しくなりましたが、どうしても子どもたちと一緒に、おばあちゃんの世代も私たちは一緒に、交通安全のことも関係をして、子どもたちと一緒に交通安全の指導にも行ったり、恒例の3世代交流という形でいつも日頃しております。子どもたちの見守りに、朝、登下校の折にも、無理をしないで、とにかく自分の家の前を通っていく子どもたちに声をかけてね、そんなふうにしてとにかく身体を動かして外へ出る、内に引きこもらない、引きこもっていないで外へ出て頂戴というお話をいつもしている訳なんです。少しずつ女性の皆さんがなんとか、高齢の皆さんであっても元気なまま、こうしてスポーツに関わる、身体を動かす事になんとか携わっていただければいいなと思って、いつも話をしています。

あと、このスポーツクラブを設置していない市町があと7つあるということで、女性県政会議の折にもいろんな地域に行きますけど、ウォーキングのクラブとか、体操をしているグループさんですとか、そんなお話をよく聞きます。ぜひそういう抜けている市町のところへ、小さい団体であっても少しずつお入りいただいて、なんとか石川県全体がこの全部の市町にスポーツクラブが設置ができることを望んでおります。

もう一つ、この県民スポーツの日、このスポレク交流大会とあわせて県民スポーツの日を制定いただくということで、具体的にどのような、各市町ごとでいろんなスポーツ施設で開催されるのか、大きな一か所で、その日、第4日曜日というこの日になさって、あとはそれぞれスポーツにつなげてくださってという形なのか、ちょっと具体的に教えていただけたらと思えます。よろしくお願い致します。

事務局

まず、石川県内、オリンピックも国体でも女性の活躍ってほんと目覚ましくてですね、そういう意味では女性がスポーツに取り組む何らかの少しのきっかけさえあればですね、スポーツの高みだけではなく、裾野の拡大も果たされると思いますので、そこは我々も頑張っていきたいと思いますが、仰る通り階段を上がるだけでも運動ですし、運動・スポーツってほんとにハードルって高くなくて、気軽に楽しめるものだと、我々がやっているスポーツマイレージも、そういったことをほんの少し後押しするようなものになっていますので、そこからどんどん運動を続けていくような、機運として進めばいいなと思っております。

ご質問いただいたスポーツの日なんですけど、我々石川県だけでなく市町も連携しながらやっていかなければいけないと思っておりまして、市町も施設を無料にして、県の施設だけではなくて、やっていていただいていますし、その日自体は県もイベントをやりますので来てくださいということになりますけど、他の市町さんも、県がやっているスポセンとかでやるところに行ってきたらということもあるでしょうし、うちは我々でやりますよっていうこともありますので、それぜひ我々やってほしいと言っておりますので、そういった取組も各市町考えて下さっていると思いますので、連携してやっていきたいと思っております。

尾山副会長

今ご意見、ちょっと重複するんですが、女性の県の実施率が低いことに私ちょっと驚いて、自分がスポーツ好きなもんでこんなに低いのかとびっくりしてんですけど、この活動の促進と言うことでスポーツの実施を促す取り組みの強化ということで、何か具体的に対策や取り組みをお考えでしたらお聞かせ願いたいと思っております。

事務局

実は我々も女性をターゲットにしてどのように運動実施率を高めていけばいいかというのは、今まさに検討しているところでして、もし、そのこういったふうにしたらというご提案があったら大変ありがたいのですが、ちょっと最近我々がよく考えているのが、女性がスポーツをやるときの三主徴というんですかね、骨粗鬆症であるとか、無月経であるとかエネルギー不足とか、そういったものに対する認識ってなかなか女性でなければ分からない部分もあったりして、一方女性の指導者は、女性と限らず男性である場合も多いと思っておりますし、こういった部分で男性指導者に対する啓発と言うんですかね、そういったものももし効果的であれば、そういったこともやっていかなければならない、そういったことは考えているんですが、ちょっとまだ検討中なので良いアイデアがあればいただければと思います。よろしくお願いいたします。

西尾会長

スポーツをいかにハードルをさげて、身近にするかというのは勝負の1つかなと、それがスポーツ文化を醸成していくことになるのかなと私も思っております。

野口委員

今度は教育長の立場で少し話をさしていただきたいと思っております。今回の推進計画とても良くまとまっているなど読ませていただいて、率直な感想を持ちました。これまでの主な取り組みがあって課題があって、それを受けての新たに取組む方針がありますが、1つだけ、生涯にわたるスポーツ活動の振興のところ、3段目に部活動についてお触れになっていらっしゃるんですが、これに

についても新たな取り組み方針っていうところが、今表れていないんですけども、今後なにかそれについて話される予定があるのかどうなのかっていうのを伺いたいなど。これとっても大事なことで、県教育委員会の方でも市町の教育委員会と力を合わせて80時間超えのをゼロにしようというそういった方向で頑張っておりますので、新しいそういった方向が提示されればすごく力になるかなと思っておりますがいかがでしょうか。

事務局

この問題、たしかに非常に難しい問題で、令和5年度までにこれを達成しなければならないということで本当に相当高いハードルを越えなければならないなと思っております。いろいろ課題がある中で地域スポーツ人材の受け皿がどうしても重要になるんですが、それがあのかないのか、ないところでどうやって移行させていくのかっていうのが、一番課題になってくるかなというところなんです。真っ先にやっぱり思われるのがですね総合型地域スポーツクラブなんですけれども、さっき資料1で説明したとおり全市町にあるわけではないと、どうしても偏在がでてしまいますのでですね、受け皿としての期待はあるんですが、直ちにそれが実現できるかという今は相当難しいと思っておりますので、我々今回目標は達成出来なかった訳なんですけど、少なくとも19市町までどんどん広げていくその努力をしないとかなと思っておりますし、総合型っていうのはやっぱり複数種目あって、ということは複数の部活に対応出来るので非常に期待はあるんですが、単一のクラブでもですね、それがたくさんあれば受け皿になり得るということもありますので、ただ単一だとどうしてもクラブの体力的に、そこが弱いということもありますので、我々総合型地域スポーツクラブを、例えば市町をまたいで人材流通というんですかね、人材交換していくような、そういう県が間にはいった調整が出来ないかと、そういった取り組みをどんどんしていくことによってスポーツクラブがない市町においてももしかすると、その市や町の部活に対応することも出来るかもしれませんし、やっぱりまずは総合型スポーツクラブが量もそうすし一つ一つが組織として強くなっていく質の部分、両方強化していかないとかなと思っておりますので、我々それを支援する、要はアドバイスをしていかないとかなと思っておりますし今後は、まあ反省になるんですけど、そもそもクラブがないところは自発的にそういう芽が育っていないっていうことで芽が出ればですね、それを大きく水を与えて花にしていくのがやりやすいところもあるんですが、そこがどうしていけば良いかなと思っておりますので、先ほど色々クラブがあるということでしたが、そういったこと例えばクラブ同士が似たような方向性でくっつくとかということも応援できたらと思っておりますし、まずはクラブをどんどん支援していくような取り組みをなんとか我々は続けていきたいと思っております。

野口委員

ありがとうございます。よく内実というか、理解はしているつもりなので、またご提示いただけたらと思っておりますし、我々も教育長会の方から全国、スポーツ庁も含めてやはり無理なことは無理なんだということもあります。率直に今回の計画を読んだときに厳しいなと僕もそう思いましたけれども、中央とも話をしながら進めていきたいと思っております。力を合わせて頑張っていけたらと思っております。

石田委員

学校体育研究会の石田でございます。泉小学校の校長をしておりまして、少し

学校体育の方から事業について意見を言いたいと思います。まず、スポーツ実施率の結果をみまして、石川県こんなに低いということにショックを受けております。運動好きの子どもたちをもっともっと増やさないとだめだなと強く感じた次第です。学校の体育の中で2つ視点があるかと思うのですが、1つが体力の向上を図っていくというところでいろいろ工夫して、学校で5分間走を取り入れたり、学校特有の運動を取り入れたりしながら授業の質を上げていくというところをやっておりますが、もう一つ、生涯にわたって体育好きの子どもを育てていくというところがとっても大事だと思っております。自然とそういうふうにならざるを得ない、加わりたいという、そういう体育を目指すべきと、すごい大事だなと思っております。また今回の結果をですね、各市町の先生方にもお伝えして、県の保健体育課、それから各市町の教育委員会と連携いたしまして、運動好きの子どもたちをどんどん増やしていきたいなと強く感じたところです。

舘委員

スポーツ少年団から出ております舘と申します。よろしくお願ひいたします。今、子どもたちの体力の向上について石川県スポーツ少年団の位置づけが重要だなと思ひながらお聞きしておりました。やはり裾野を作っていくというのがこのジュニアアスリートを育てていくための一番大事なことではないかなと思っております。その中でやはり一貫指導というものが大事になってくるのかなと思っております。小学校で育成し、そして中学に入った3年間、また高校で3年間、とバラバラになっている、またよく育ってきたのに県外の大学に行ってしまうというのは、やはりそれは大変な石川県としても損失と思ひますので、一貫指導についてなにかこだわりというかお考えのことはございますか。

事務局

一貫指導自体の趣旨はよくわかるんですが、ちょっと現実的に何かできているという状態にはなくて、ちょっと前までは一貫指導という事業をやっていたんですけども、ある程度成果が出たところでやめてしまっているところもありますので、いま仰っている一貫指導というのは、小学生レベルの時から運動好きな子を維持させていくという意味になるのでしょうか。今、我々がやっている、さっき説明したジュニアアスリートなんかではね、まだ始めたばかりではあるんですけど、運動能力測定会で適性をお伝えして、自分がこの競技にあっているんだと分かった子がその競技を始めていただいて、今までやったことなかったその競技の可能性に気が付いて、競技にはまっていく、続けていくというような、そういったものを意識してやっている事業ではありまして、もしそういったような答えになるのであれば、引き続きやっていきたいと思ひます。

舘委員

ありがとうございます。一貫指導というのは、やはり個人的なクラブとかね、そういうのだったら出来るかなと思ひますけどそれに対しての競技協会を通じても循環を出来ていけばそれは凄く良くなるのではないかなというふうに考えて参ります。そして別になりますけれども部活の時間帯を少なくしてというふうになりますと、中学校の部活の担当の先生方が、競技力が低下するのではないかというご心配があるということもお聞きしたこともありますし、そして総合型地域スポーツクラブに委ねていくそれが凄く地域での活性化というのに役立つと思ひますが、ただ総合型地域スポーツクラブがきちんとした設計

で作られている、目的をきちんとして作られているというのであれば良いんですけれども、ただ単に2010年に文科省の方から総合型地域スポーツクラブを中学校下1つ作りなさいとってただただ作ったというところもありうる、可能性もありますけれどもその辺もやはり考えていって、総合型地域スポーツクラブが民間のスポーツクラブと違うことが出来るというのにやはり地域のスポーツをささえるサポートしていくというのがとても強みじゃないかなと思っています。それには地域の、行政の支援が大事になってくると思いますし、その辺も県の方から市町の教育委員会に総合型地域スポーツクラブの運営に関して指導していくというのが大事だと思いますので、まだ市町でないところに関してはその辺のサポートもお願いしたいと思っています。

事務局

重要なお指摘ありがとうございます。部活動の地域移行で、指導者が減ることについて変わってしまうことへの危惧っていうのはすごく我々も感じているところで、そのためには、例えばもし地域の総合型スポーツクラブが受け皿になるのであれば指導者の質の向上が必要でして、今日本スポーツ協会の方で総合型スポーツクラブの認証制度への移行っていうものを令和4年度からやろうとしてるんですけれども、いわば国がお墨付きを渡して認証されたらそのスポーツクラブはしっかりしているよと、その要件の中に日本スポーツ協会の公認の指導者資格をとったことも資格に入ったり、運営のマネージャーそういう部分の資格を持っている人が要件になってそうして認証されてというふうになるんですね。そうすると総合型というのがある程度質的に高いと担保されるよということはあるんですね。こういった取り組みまだ始まってなくて、どれくらいこれが県内に浸透していくかというのは見えないところではあるんですけれども、委員のお指摘を踏まえてですね、我々もそういったものをどんどん後押しして、動機付け、どんどん認証を受ける方への動機付けっていうのも我々しっかりして、たぶんクラブが市町の自治体さんと連携して協議体なんかを設けることになりますので、そういったことで情報交換して、クラブどんどん育成するようにわれわれ強力にやっていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

宮崎委員

せっかくの機会なのでよろしくお願いします。今年こういう状況で中体連、県体っていうのは中止になったわけなんですけども、そのスローガンが「感謝スポーツが出来ることに」というそのスローガンで今年は県体を開催する予定でした。それが出来なくて、このスキーの大会は実施予定ですけども、子どもたちは運動部活動に関わって、スポーツを通して日常の充実感というものを感じながら、自分の成長をより一層高めようとする、そんな気持ちがここにこめられているのかなと言うふうにも感じています。また先ほどから部活動についての話題が出ていましたけど、今現在やはり子どもたちがそのような成長がみられ、大事な活動だと誰しもが思っているものだと思います。それが地域に移行していくという一つの方向性はありますけど、これまで行ってきた部活動の在り方、部活動における人間形成というものを含めて大事にしていかなければならないし、この体制は今後も生きていかなければならないなど、私自身は思っています。その中で、今現在部活動指導員という方が配置されている学校があったりして、それは教員の免許というか資格をもった方という、それが一つの基本になっている部分があって、その指導されている方の、人材の、その人自身が、指導力があってまた教育にも精通している。そんな方が指導に当たっ

ている。これはありがたいなと思っています。今後その人材がどのように変わっていくかということについては、やはり人材育成というものが大事になっていくのかなとも思っていますので、そのあたり今後の見通しを見据えていただいて、計画的に進めていただけたらなと思っています。なるべく部活動の重要性というものを大事にさせていただきたいなと思っております。以上です。

西尾会長 大変重要なお指摘・ご提言かと思えます。時間も参りましたので、本日たくさんのご意見を各委員の先生方からいただきまして、まだご意見・ご質問のある方もいらっしゃるかと思いますがこのあたりで審議を終了させていただきます。ご協力のほどありがとうございます。

司会 西尾会長ありがとうございます。本日のご意見も踏まえて、協議中にも説明のありましたように、今後はパブリックコメントを実施して、新計画策定に向けて県民の意識等を取り込みながら進めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。以上で本日の日程は全て終了となります。委員の皆様、本日はありがとうございます。